



「善力前進」ともに伸びよう 善前小 ～はずむ心 きたえる体 学ぼう創ろう「みどりの学園」～

自分で 決めて 自分で やる

～大切にしたい 主体性～

校長 小田切 倫子

校庭の木々が、鮮やかな紅葉で私たちを楽しませてくれる季節となりました。実りの秋、読書の秋、スポーツの秋…、すてきな秋を満喫しましょう。

さて、10月5日（月）～10日（土）の期間に開催された「スポーツフェスティバル」は、赤組の優勝で幕を閉じました。点数は、赤組1,633点、白組1,615点、なんと18点という僅差！今年は、個人走・団体競技・児童会企画、全ての種目の各々の結果が、直接点数となって加算されるルールでしたので、上記の点数は、子どもたち一人ひとりの努力の結晶です。個人面談期間中、ランチルームにて紹介させていただきました「スポーツフェスティバル」の映像から、子どもたちのがんばりが伝わっていたなら、大変嬉しく思います。この「スポーツフェスティバル」は、「運動会」が実施できないために苦肉の策として行ったものですが、結果としては、いつもとは違う面の力が伸びた、すばらしい行事となりました。そのキーワードは、“主体性”であったと振り返ります。

団体種目「紅白玉投げ」の実施にあたり、『レインボール』という練習用の玉を作ったことは、先月号の学校だよりで紹介したところでした。この『レインボール』作りや休み時間の練習は、運動委員会の児童が中心となって行ってくれました。児童会企画は、クラスから出された案をもとに、企画、運営の全てを児童会が決めて行ったこともご案内の通りです。表現（ダンス）も、いつもなら先生に教わったダンスを踊りますが、今年は自分たちで作りました。出来上がったダンスは、とても子どもが考えたとは思えないほどの素敵なダンス。そして、踊っている様子が最高でした。“喜び”や“自信”といった感情が体中からあふれ、生き生きと表現していたのです。子どもたちの踊る姿を見て、心が震えました。子どもたちが自分たちで決め、“主体性”をもって取り組んだダンスだからこそ、一人ひとりが“主役”となって輝いていました。

ふと、1か月ほど前のエピソードを思い出しました。場面は1年生の算数の授業です。その時間の学習内容が終わり、最後の数分間は計算を定着させる時間でした。表面には計算問題、裏面にはその答えが書いてある、リングで束ねられた単語帳のような「計算カード」という物を使って、各自練習する方法です。近くにいた男の子が、「おれ、緑色の計算カードをやろう！」とつぶやきました。「計算カード」にはいくつかの種類があり、リングの色によって難易度が違うのです。私が男の子に、どうして緑色の「計算カード」を選んだか尋ねると、「だって、青と黄色は簡単だから」と答えたのです。その男の子は、計算の答えがすぐに出でこず、途中で止まりながらも、時間の最後まで一生懸命考えながら集中して練習していました。男の子があえて難しいカードをやることを自分で決め、“主体性”をもって取り組んだからこそすばらしい学びが繰り広げられていたのです。

“主体性”が大切であることは十分理解していたつもりでしたが、子どもたちのすばらしい成長ぶりを目の当たりにし、その重要性を改めて認識させられました。何でもかんでも自分でやらせることが“主体性”ではありません。また、待っていれば自然と湧き出てくるものでもありません。そこには、ねらいをもった仕掛や計画等が必要です。自己決定をさせる場も必要です。自分を律する力も求められます。大きな行事においても、日々の学習や生活の小さな場面においても、常に“主体性”を意識して子どもと向き合うことが肝心です。善前小学校は、今後も、子どもたちの心に火をつけ、子ども自身が主体的に伸びようとする力を大切に、様々な教育活動に取り組んでまいります。